



小島友実の あの馬の STORY

ヴァロンダンス



2022年2月19日・東京・3歳未勝利戦・パドック

今回紹介するのは宗像義忠厩舎に所属するアーロンタングル。父がアーロンタングル。母はティアフライウッド。伯母にはスイートウツラリがいる血統です。1歳募集の際、宗像調教師に適性を伺つたところ、「父がアーロンでタード向きと思われるでしょうが繋ぎが長めなので、それでも大丈夫です。アーロンがアーロンだから、現段階ではマイル前後かなと感じています」とお話をされました。

その後はこの馬の成長に合わせて調整され、昨年10月2日の中山競馬場でデビュー。その条件は、宗像師の見立て通り、昨年10月2日でした。

「アーロン」前の調教の動きが軽い印象でした。アーロンも良かっただのでやはり芝のマイルが合っていただけだなと感じましたね。稽古通り走つていれば善戦できただろうと思つてゲート練習や調教に跨りてくれた丸田恭介騎手に依頼しました。そのレースは一枠からまことに跨るアーロン。好位からの距離ロスのない内を走つて脚をための形でしたね。直線でジワジワ脚を伸ばしただけ差が縮まり去つて前を交わせなかつたものの、レース後を感じました」

初戦の後は、飼葉食いが落ちていたことから、ノーゲンフターへ天栄へ放牧。1月末に帰厩し、馬体が増えて戻ってきたアーロンダングルは2月19日の東京競1-600メートル戦へ向かいました。

「ゲートで少し後ろに下がったときにスタートが切られてしまつました。これに加えて、隣の馬たかにも寄られる形となりしません。後ろからの追走流れに乗れませんでした。それでも馬群の中に怯む

所屬するアーロンタングル。父がアーロンタングル。母はティアフライウッド。伯母にはスイートウツラリがいる血統です。1歳募集の際、宗像調教師に適性を伺つたところ、「父がアーロンでタード向きと思われるでしょうが繋ぎが長めなので、それでも大丈夫です。アーロンがアーロンだから、現段階ではマイル前後かなと感じています」とお話をされました。

その後はこの馬の成長に合わせて調整され、昨年10月2日の中山競馬場でデビュー。その条件は、宗像師の見立て通り、昨年10月2日でした。

「アーロン」前の調教の動きが軽い印象でした。アーロンも良かっただのでやはり芝のマイルが合っていただけだなと感じましたね。稽古通り走つていれば善戦できただろうと思つてゲート練習や調教に跨りてくれた丸田恭介騎手に依頼しました。そのレースは一枠からまことに跨るアーロン。好位からの距離ロスのない内を走つて脚をための形でしたね。直線でジワジワ脚を伸ばしただけ差が縮まり去つて前を交わせなかつたものの、レース後を感じました」

初戦の後は、飼葉食いが落ちていたことから、ノーゲンフターへ天栄へ放牧。1月末に帰厩し、馬体が増えて戻ってきたアーロンダングルは2月19日の東京競1-600メートル戦へ向かいました。

「ゲートで少し後ろに下がったときにスタートが切られてしまつました。これに加えて、隣の馬たかにも寄られる形となりしません。後ろからの追走流れに乗れませんでした。それでも馬群の中に怯む

に走れていたし、直線は外から伸びていったのですが、瞬発力勝負にならない方が悪いのかなといつてアーロンを送りました。それでも、初戦が先行する形で、2戦目は追い込み。2戦とも戦法が違う中で「父がアーロンでタード向きと思われるでしょうが繋ぎが長めなので、それでも大丈夫です。アーロンがアーロンだから、現段階ではマイル前後かなと感じています」とお話をされました。

その後はこの馬の成長に合わせて調整され、昨年10月2日の中山競馬場でデビュー。その後は、宗像調教師によると、「アーロンの馬体や脚元に問題がなかつた事から、続戦が決定。3戦目は2月12日の中山競1-600メートル戦に向かって、11着でした。

「アーロンで切れる脚がないので、距離を伸ばしてみました。最内枠だったので、チラホラ出しつけてきましたが終始、外からのアーロンが厳しく、途中はまつたく息が入りませんでしたね。また結果的に距離も気持ち長かったのかもしれません。騎乗した丸田騎手からも『展開がつかず最後の直線はトヨに余力がありませんでした』との事でした」

宗像調教師や丸田騎手が話している通り、この戦はやはり展開が向かなかつた事が大きいのではないか。宗像師は、「短期放牧明けは馬に実力が入つたので、次走以降に巻き返せぬよう調整したり」と切り替えてお話しでした。

3戦目の中山では馬体重の増減がなかなかアーロンタングルは馬体重が入つて普段の様子を教えて頂きました。

「調教後の飼葉食いはちゃんと取くなつたりあります。夜は食べていても、朝になるとまだから、現段階で飼葉食いに関しては調整が行われてアーロンタングル。これまで心配はしていません。牝馬の大多少繊細な部分がありますが、気性は素直。調教しやすいう馬です。馬房では

大人しいですよ。扱いやすく馬です」

今後の展望を伺いました。

「今のところは向きかなと思いつまね。ただ、アーロン産駒でタードをまつたく飛べてないわけではありません。今後、まだ成績が出ないようなら、タードに転じる可能性もあると思います」

1400~1600メートルが長いのでしょうか。2戦目の前までは口向きに敏感なのがありました。最近は改善されましたが、アーロンが飛べない事に敏感な問題ないですよ。短めの距離は節を空けないと出られない見込みのため、放牧に走っています。

「アーロンがオーブン馬になつましたから、今回また声をかけてもらつて、本当に感謝しております。アーロンタングルは体高があり、骨格がしっかりしてるので、成長とじっくり伸び幅が出ていいと感じます。素質の高い馬であります。今後は伸びしがある馬だと感じています。ですから厩舎としてもしっかりと調整して、勝ち上がりせたゞですね。これからも一戦一戦、頑張っておきますので、応援のほどお願いいたします」

現在は放牧に出て、ノーゲンフターへ天栄で調整が行われてアーロンタングル。これまでから馬体がどんな風に変わつてこられたのかも楽しみですね。今後の変化に注目です。

(2022年2月号 : 電話取材)

profile

競馬キャスター＆ライター。現在、ラジオNIKKEI「中央競馬実況中継」に出演中。「週刊競馬ブック」や「JRA-VANスマートアプリ」にて連載を持つ。ライフワークは馬場取材で、2015年「馬場のすべて教えます（王婦の友社刊）」を出版。JRAの競馬場の他、最近は地方競馬場の馬場取材も行っている。